

だいしんDXてらすで、AIを活用して課題解決の方法を話し合う関係者＝大垣市波須、大垣西濃信用金庫三城支店



相談窓口でAI活用

大垣西濃信金が開設へ

三城支店 DX推進を支援

大垣西濃信用金庫は来年1月10日から、事業者の付加価値向上やデジタル活用を支援する「だいしんDXてらす」を三城支店（大垣市波須）に開設する。担当職員と外部アドバイザーに加え、生成人工知能（AI）を活用するのが特徴。対人相談とAIを組み合わせることで、より短時間で効率的な課題解決を目指す。23

日にプレ相談会を開き、実際にAIを活用しながら相談対応した。

担当職員の一人は「人手不足や生産性向上は企業の大きな課題。AIを使った相談対応で解決の方向性を探るほか、それぞれの会社のDX（デジタルトランスフォーメーション）にも役立ててほしい」と話す。だいしんDXてらすは毎

週1回（第1、第3金曜日と第2、第4木曜日）。時間は午前9時30分から同11時からで、各1時間。相談料は無料で、予約が必要。希望すれば相談内容を録音し、要約した議事録を提供することもできる。

プレ相談会には、市内の金属加工会社の男性社長が訪れ、「DXを進めたいが、どこから始めればいいのか分からない」などと相談。会社のPRや職人の技術継承などの方法についてAIを活用して課題解決への議論を深めた。